

第1講 『頭痛』

【分類】 { 外感性：風寒、風熱、風湿
 内傷性：肝陽亢進、痰濁、瘀血、腎虚、気血両虚

【病因病機】

(1) 外感性

風邪 { 寒邪 — (凝滞性)気滞・血瘀 —————→ 経絡・血脈の阻滞 (不通則痛)
 熱邪 — (炎上性)風熱邪が頭部を侵す —————→ 気血逆乱
 湿邪 — (重濁性・粘滞性)頭部(〜)の経絡を阻害 ———→ 清陽難昇 (不栄則痛)

(2) 内傷性

肝 { 情志の失調 → (肝気失調) → 化熱 }
 火(陽)盛傷陰 } —————→ 肝腎陰虚 } 肝陽上亢 → 頭部を侵す

腎 { 腎陰虚 }
 腎精不足 } —————→ 脳を滋養できない → 脳髓空虚

脾 { 勞 倦 }
 大病久病 } 脾胃の損傷 { 血生成不足 → 脳の滋養不足
 飲食不節 } { 痰濁の発生 → 頭部(〜)の経絡を阻害 → 清陽難昇

瘀血 { 外 傷 }
 内 傷 } 血行不暢 —————→ 血脈の阻害 { 脳の滋養不足 (不栄則痛)
 瘀血阻絡 (不通則痛)

* 病 位：頭部、肝・腎・脾に関係がある

* 病 機：経絡・血脈の阻害、清竅(頭部)滋養不足、神機に影響

【弁証の要点】

(1) 痛みの程度

{ 比較的重い：風寒、風熱
 比較的軽い：腎虚、気血両虚

(2) 痛みの性質

- 重(墜)痛：痰濁、風湿
- 跳痛・脹痛：肝火亢進
- 隱痛・空痛：気血両虚、腎虚
- 刺痛：瘀血
- 冷感・刺痛：風寒

(3) 頭痛部位

- 前頭：陽明経；後頭：太陽経；側頭：少陽経；頭頂：厥陰経
- 全頭痛：気血両虚、腎虚
- 側頭・後頭部から頸部まで痛みがあるもの：肝陽亢進

(4) 影響を与える要素

- 運動・活動：気虚
- 天気の変化（雨・曇りで増悪）：寒・湿
- 情緒：肝陽亢進

【症状と処方例】

1. 風寒頭痛

[症状] 発病が急、痛みが重く、項部・背部に痛みやひきつりを伴う、悪風悪寒、喉は渴いていない、舌苔薄白、脈浮緊。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
風池	胆経	祛風	乳様突起下端と瘻門穴の中間、陥凹部
列缺	肺経	解表宣肺	太淵穴の上1寸5分、動脈拍動部のやや橈側を取る
合谷	大腸経	祛風解表を強める	第1・第2中手骨底間の下、陥凹部、第2中手骨より取る
風門	膀胱経	疏風散寒	第2・第3胸椎棘突起間、外1寸5分

2. 風熱頭痛

[症 状] 発病が急、痛みは重い、発熱悪風、口渴、面紅目赤、舌紅苔黄、脈浮数。

[処方例]

	経 絡	意 義	取 穴 部 位
風 池	胆 経	祛 風	乳様突起下端と瘻門穴の中間、陥凹部
尺 沢	肺 経	清 肺 熱	肘窩横紋上で上腕二頭筋腱の橈側陥凹部
魚 際	肺 経		第1中手指節関節の上、橈側陥凹部、表裏の肌目
大 椎	督 脈	清 熱	第7頸椎・第1胸椎棘突起間

3. 風湿頭痛

[症 状] 発病が急、締め付けられるような痛み、頭身が重い、納呆、舌苔白膩、脈浮滑。

[処方例]

	経 絡	意 義	取 穴 部 位
風 池	胆 経	祛 風	乳様突起下端と瘻門穴の中間、陥凹部
豊 隆	胃 経	祛 湿	外果の上8寸、条口穴の外方に一筋へだてた陥凹部
足三里	胃 経	健脾利湿	外膝眼穴の下3寸
肺 兪	膀胱経	解 表	第3・4胸椎棘突起間の外1寸5分

4. 肝陽亢進

[症 状] 脹痛で目眩を伴う、精神が安定せず怒り易い、脇痛、口苦、舌紅苔薄黄、脈弦。

[処方例]

	経 絡	意 義	取 穴 部 位
頷 厭	胆 経	清肝胆火	頭維穴と懸釐穴間の線上で、頭維穴の下1寸に取る
懸 釐	胆 経		頭維穴と懸釐穴間の線上で、頭維穴の下2寸に取る
太 衝	肝 経		足背にあり、第1・2中足骨底間の前、陥凹部
太 谿	腎 経	補 腎 陰	内果とアキレス腱の間陥凹部

5. 痰濁

[症状] 前頭部痛、頭がぼんやりする、胸苦しい、胃のつかえ、悪心嘔吐、泥状便、舌苔白膩、脈滑。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
中脘	任脈	補中利湿	前正中線上、臍の上4寸
豊隆	胃経	祛痰	外果の上8寸、条口穴の外方に一筋へだてた陥凹部を取る
合谷	大腸経	疏通陽明	第1・第2中手骨底間の下、陥凹部、第2中手骨より取る
頭維	胃経		額角髪際、神闕穴の外4寸5分
百会	督脈	昇清陽	正中線上、前髪際の上5寸

6. 瘀血

[症状] 頭痛が長期間続いている、固定性の刺痛、或いは頭部の外傷史、舌紫或いは瘀点・瘀斑、脈沈澹・沈細。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
阿是穴	***	疏通経絡	* * * * * * * * * *
合谷	大腸経	行気	第1・第2中手骨底間の下、陥凹部、第2中手骨より取る
三陰交	脾経	活血	内果の上3寸、脛骨内側縁の骨際

7. 腎虚

[症状] 隠痛・空痛、目眩を伴う、腰のだるさ・痛み、精神疲労、耳鳴り、舌紅少苔、脈沈細無力。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
太谿	腎経	補腎	内果とアキレス腱の間陥凹部
腎兪	膀胱経		第2・3腰椎棘突起間の外1寸5分
復溜	腎経		太谿穴の上2寸、アキレス腱の前
関元	任脈		前正中線上で臍下3寸

8. 気血両虚

[症状] 隠痛、疲れると増悪、倦怠感・無力感、心悸・怔忡、食欲不振、顔色不華、舌質淡、脈細無力。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
百会	督脈	昇清陽	正中線上、前髪際の上5寸
心俞	膀胱経	補心血	第5・6胸椎棘突起間の外1寸5分
脾俞	膀胱経	補脾気	第11・12胸椎棘突起間の外1寸5分
足三里	胃経	補後天、 生氣血	外膝眼穴の下3寸
三陰交	脾経		内果の上3寸、脛骨内側縁の骨際

* 近位選穴 { 前頭痛：上星、陽白 ; 頭頂痛：百会、前頂
後頭痛：天柱、後頂 ; 側頭痛：率谷、太陽

第1講 『頭痛』

【分類】 { 外感性：風寒、風熱、風湿
内傷性：肝陽亢進、痰濁、瘀血、腎虚、気血両虚

【病因病機】

(1) 外感性

風邪 { 寒邪 — (凝滞性)気滞・血瘀 —————→ 経絡・血脈の阻滞 (不通則痛)
熱邪 — (炎上性)風熱邪が頭部を侵す —————→ 気血逆乱
湿邪 — (重濁性・粘滞性)頭部(〜)の経絡を阻害 ———→ 清陽難昇 (不栄則痛)

(2) 内傷性

肝 { 情志の失調 → (肝気失調) → 化熱 }
火(陽)盛傷陰 } —————→ 肝腎陰虚 } 肝陽上亢 → 頭部を侵す

腎 { 腎陰虚 }
腎精不足 } —————→ 脳を滋養できない → 脳髓空虚

脾 { 勞 倦 }
大病久病 } 脾胃の損傷 { 血生成不足 → 脳の滋養不足
飲食不節 } 痰濁の発生 → 頭部(〜)の経絡を阻害 → 清陽難昇

瘀血 { 外 傷 }
内 傷 } 血行不暢 —————→ 血脈の阻害 { 脳の滋養不足 (不栄則痛)
瘀血阻絡 (不通則痛)

* 病 位：頭部、肝・腎・脾に関係がある

* 病 機：経絡・血脈の阻害、清竅(頭部)滋養不足、神機に影響

【弁証の要点】

(1) 痛みの程度

{ 比較的重い：風寒、風熱
比較的軽い：腎虚、気血両虚

(2) 痛みの性質

- 重(墜)痛：痰濁、風湿
- 跳痛・脹痛：肝火亢進
- 隱痛・空痛：気血両虚、腎虚
- 刺痛：瘀血
- 冷感・刺痛：風寒

(3) 頭痛部位

- 前頭：陽明経；後頭：太陽経；側頭：少陽経；頭頂：厥陰経
- 全頭痛：気血両虚、腎虚
- 側頭・後頭部から頸部まで痛みがあるもの：肝陽亢進

(4) 影響を与える要素

- 運動・活動：気虚
- 天気の変化（雨・曇りで増悪）：寒・湿
- 情緒：肝陽亢進

【 症状と処方例 】

1. 風寒頭痛

[症 状] 発病が急、痛みが重く、項部・背部に痛みやひきつりを伴う、悪風悪寒、喉は渴いていない、舌苔薄白、脈浮緊。

[処方例]

	経 絡	意 義	取 穴 部 位
風 池	胆 経	祛 風	乳様突起下端と瘻門穴の中間、陥凹部
列 缺	肺 経	解表宣肺	太淵穴の上1寸5分、動脈拍動部のやや橈側を取る
合 谷	大腸経	祛風解表を強める	第1・第2中手骨底間の下、陥凹部、第2中手骨より取る
風 門	膀胱経	疏風散寒	第2・第3胸椎棘突起間、外1寸5分

2. 風熱頭痛

[症 状] 発病が急、痛みは重い、発熱悪風、口渇、面紅目赤、舌紅苔黄、脈浮数。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
風池	胆経	祛風	乳様突起下端と瘻門穴の中間、陥凹部
尺沢	肺経	清肺熱	肘窩横紋上で上腕二頭筋腱の橈側陥凹部
魚際	肺経		第1中手指節関節の上、橈側陥凹部、表裏の肌目
大椎	督脈	清熱	第7頸椎・第1胸椎棘突起間

3. 風湿頭痛

[症 状] 発病が急、締め付けられるような痛み、頭身が重い、納呆、舌苔白膩、脈浮滑。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
風池	胆経	祛風	乳様突起下端と瘻門穴の中間、陥凹部
豊隆	胃経	祛湿	外果の上8寸、条口穴の外方に一筋へだてた陥凹部
足三里	胃経	健脾利湿	外膝眼穴の下3寸
肺俞	膀胱経	解表	第3・4胸椎棘突起間の外1寸5分

4. 肝陽亢進

[症 状] 脹痛で目眩を伴う、精神が安定せず怒り易い、脇痛、口苦、舌紅苔薄黄、脈弦。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
頤厭	胆経	清肝胆火	頭維穴と懸釐穴間の線上で、頭維穴の下1寸に取る
懸釐	胆経		頭維穴と懸釐穴間の線上で、頭維穴の下2寸に取る
太衝	肝経		足背にあり、第1・2中足骨底間の前、陥凹部
太谿	腎経	補腎陰	内果とアキレス腱の間陥凹部

5. 痰濁

[症状] 前頭部痛、頭がぼんやりする、胸苦しい、胃のつかえ、悪心嘔吐、泥状便、舌苔白膩、脈滑。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
中脘	任脈	補中利湿	前正中線上、臍の上4寸
豊隆	胃経	祛痰	外果の上8寸、条口穴の外方に一筋へだてた陥凹部を取る
合谷	大腸経	疏通陽明	第1・第2中手骨底間の下、陥凹部、第2中手骨より取る
頭維	胃経		額角髪際、神闕穴の外4寸5分
百会	督脈	昇清陽	正中線上、前髪際の上5寸

6. 瘀血

[症状] 頭痛が長期間続いている、固定性の刺痛、或いは頭部の外傷史、舌紫或いは瘀点・瘀斑、脈沈澁・沈細。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
阿是穴	***	疏通経絡	* * * * * * * * * *
合谷	大腸経	行気	第1・第2中手骨底間の下、陥凹部、第2中手骨より取る
三陰交	脾経	活血	内果の上3寸、脛骨内側縁の骨際

7. 腎虚

[症状] 隠痛・空痛、目眩を伴う、腰のだるさ・痛み、精神疲労、耳鳴り、舌紅少苔、脈沈細無力。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
太谿	腎経	補腎	内果とアキレス腱の間陥凹部
腎兪	膀胱経		第2・3腰椎棘突起間の外1寸5分
復溜	腎経		太谿穴の上2寸、アキレス腱の前
関元	任脈		前正中線上で臍下3寸

8. 気血両虚

[症状] 隠痛、疲れると増悪、倦怠感・無力感、心悸・怔忡、食欲不振、顔色不華、舌質淡、脈細無力。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
百会	督脈	昇清陽	正中線上、前髪際の上5寸
心俞	膀胱経	補心血	第5・6胸椎棘突起間の外1寸5分
脾俞	膀胱経	補脾気	第11・12胸椎棘突起間の外1寸5分
足三里	胃経	補後天、 生氣血	外膝眼穴の下3寸
三陰交	脾経		内果の上3寸、脛骨内側縁の骨際

* 近位選穴 { 前頭痛：上星、陽白 ; 頭頂痛：百会、前頂
後頭痛：天柱、後頂 ; 側頭痛：率谷、太陽